

## 平成 30 年度 福井市 P T A 連合会「市長・教育長と語る会」質問&回答

### 1 国体について

「福井しあわせ元気国体、福井しあわせ元気大会」が昭和 43 年以来、50 年ぶりに開催され、天候不良に泣かされる場面もありましたが、無事開催されたのではないかと思います。私たちも、ボランティアへの参加や応援など様々な形で協力させていただきました。

そこでお伺いします。福井しあわせ元気国体、福井しあわせ元気大会の成果及び評価をお聞かせください。

#### 【回答：市長】

- 市民の皆様には、花プランターの育成、各都道府県を応援する手作りのぼり旗の制作や行幸啓、行啓及びお成りにおいては、沿道や視察先で日の丸の小旗を振ってのお出迎え、そして会期中は、競技会場での力強い応援など、様々な形で参加いただいた。
- 競技成績では、福井県が天皇杯（男女総合成績）、皇后杯（女子総合成績）ともに 1 位と優れた成績を残し、成果を挙げられたと思う。
- 総合開会式で、雨の中、障がいがある多くの人たちが、笑顔で健常者に交じってダンスを披露したことが印象に残っている。
- 国体・障スポの融合について、融合のあり方は、今後さらに考えないといけないが、その先駆けとしては上手くいったと思う。障がいスポーツを通じて、障がい者への理解が深まったと思っている。
- また、この国体を契機に、勝山のバドミントンや旭のホッケーのように、福井市のスポーツを盛り上げることを考えていきたい。

## 2 災害対策について

今年2月の豪雪、7月の西日本豪雨災害、連日35度を超える猛暑など、これまでの常識では考えられないような気象状況をもたらす災害について、危機管理状況や災害対策についてお伺いします。

2月の豪雪は除雪が追い付かず、主要道路でさえ除雪に時間がかかりました。子どもたちの通学路の安全確保や学校内の除雪には多くの学校で地域の方々やPTAの協力が得られたようですが、主要道路の除雪がはかどらないと、学校が再開できたとしても、さまざまな面で支障が出ると思われま

- ① 今年の経験を踏まえて、通学路の除雪などの安全確保や、給食の配給など、今後同じような積雪があった場合の対策は、講じておられますか。
- ② 7月の西日本豪雨災害においては、避難警告が間に合わない、あるいは警告が出ていてもまだ大丈夫と避難が遅れたことで多くの命が失われました。西日本豪雨災害を受けて、市の防災対策で新たに講じられたことはありますか。
- ③ また、福井市では、豪雨による避難準備情報や避難勧告が出ているにも関わらず、市内の中学校では部活動を行っている学校が多数あったと聞いています。今後、同じような状況が発生した場合の対応は、どのようにお考えですか。

### 【回答①：市長】

- 今年の豪雪の際には、学校周辺の雪かきなどPTAの皆様には、除雪のご協力をいただきありがとうございました。
- 37年振りの豪雪だったわけだが、今回の雪は雪質や降る地域など例年と違う点が多かった。
- 雪が少ない年が続くと除雪機の確保やオペレーターの方の技術の維持が困難になる。
- 県道のような幹線道路は、線で除雪する。また、市道のような網の目の道は、エリアで除雪する。今回のような雪では、排雪が必要だった。例年のような雪であれば、排雪は必要無いため、そのための機器が不足したこと。そのことが、今回の除雪を難しくした。
- 道路の除雪は、幹線道路が積雪5cm以上、その他の道路は、新雪が10cmを超え、さらに降雪が予想される場合に除雪を開始し、通学の時間帯までに完了することを目標としている。

- 歩道については、スクールゾーン内通学路を対象に、歩道上の積雪が 20 cmを上回っている場合を標準として、長靴や防寒靴で歩行可能な状態まで除雪をするよう、福井市道路除雪計画に従って業者委託している。
- 給食施設の物資搬入口の除雪についても、市道の一斉除雪後に、出来るかぎり搬入時間までに除雪するよう対応している。今年の豪雪の際にも、除雪業者の皆様のご協力により、お蔭様で給食提供が遅れる学校は無かったと理解している。
- 小中学校のうち多雪地域や中山間地域にある学校には、小型の除雪機械を小中学校 69 校中、45 校に配置し、各校とも学校施設技師や教員が敷地内の除雪を行っている。
- 今後同じような、大雪に見舞われた場合、設備・費用に限りがある中、現状で出来るだけ早期の除雪を行うよう努力するが、今後とも P T A や地域の皆様のお力をお貸しいただきたい。

#### 【回答②：市長】

- 私の子どものころは、夏休みの宿題で台風の進路図を作成するほど台風が多かった。以降、少ない時期が続き、油断したころに多くなった。
- 台風の接近や土砂災害、河川の氾濫等が発生するおそれがある場合は、明るいうちからの避難を促すため、早めの避難準備情報を発令している。特にお年寄りの方などは、この準備情報で避難して欲しい。
- 避難指示や避難勧告を出す際には、その状況の危険度に合わせて、具体的な説明を加えて発信しているが、防災行政無線では、特に雨が降ったりしていると聴き取りにくいという難点がある。そこで、放送された内容を電話番号 25-2941「ニコリフクイシ」へ掛けることで再度確認することが出来る自動応答テレホンサービスを導入しているので、分からない時には電話して欲しい。
- 本市の新たな取組みとして、「福井市応援・受援計画」を作成した。
- 東日本大震災や熊本地震、平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）災害では、支援物資の受入れや配送時に大変な混乱を生じ、避難所へ必要な物資を供給出来なかったという課題があった。国や自治体等から支援物資を受入れる際の体制や受入手順の明確化、効率的な物資集積・配送拠点の運営を行うため計画を作成した。

**【回答③：教育長】**

- 今回の豪雨の際、土曜日に大会前のバレーボール部が練習試合を組んでいた。準備情報が出たときには、各校の生徒は、学校に着いてしまっている状態だった。そのため、校長が在中し、時間を短縮して、安全を確保した上で部活動を行った。このような事態に陥ったのは、各校の情報共有が不十分だったためだと考える。
- 9月からは、「災害対応状況」という共有ファイルに、各学校の措置状況を入力するシステムを取り入れた。これによって土日の部活や学校行事についても各学校間と教育委員会で情報を把握出来るようにした。
- 特別警報が出た場合、2つ以上の警報が重なる場合には、休校等の措置を取るよう一定のガイドラインを示している。しかし、地域や警報発令の時間滞によって、措置は変わるので、各学校の休校の判断は、校長が判断する。詳細は各学校に問い合わせる。

**3 夏休みのプール開放について**

今年は予算の削減により夏休みのプール開放の方法が変わりました。多くの学校では、保護者や地元の住民協力を得ることで開放することができましたが、小規模校では、監視員を確保できないなどの理由により、開放を見送る学校もありました。

今後、何らかの理由によって予算削減となった場合、プール開放に係る諸問題、監視員の質の確保や小規模校への対応など、対策は強化されるのでしょうか。次年度以降の福井市の方針をお聞かせください。

**【回答：教育長】**

- 今年度はPTAが中心となって開放の有無や運営を実施いただき感謝申し上げます。
- 今年の感想と来年度の考えについて、アンケートを実施した。その結果を簡単にお伝えすると、開放については、来年度も開放して欲しいという意見があった。問題となったのは、開放出来た学校と出来なかった学校とで、不公平が生じたこと。プール開放については、平等に実施して欲しいという意見が一点。安全確保・監視体制の問題がもう一点である。監視には、3人以上必要という意見があった。
- また、「従来の方法で実施して欲しい」という意見や「平等に出来ないならやるべきではない」という意見もあった。
- 本市の現状からは、財源や人員の確保を含めてPTAが望む基準まで、安全

が確保されたプール開放は、困難であると考えている。

- そこで、一つの案として、次年度の学校プール開放については、市で管理員を各学校に1名配置し、保護者同伴による学校プールの利用を検討している。
- 市が配置する管理員の業務は、「施設管理」や「保護者同伴の確認による入場の許可」、「遊泳時間の指導」、「有事の際の対応など」を主な業務とし、従来の監視業務は実施しないことで検討している。監視業務は、保護者をお願いしたいと考えている。
- 今年と違い、来年までは時間があるので、ご意見があれば伺いたい。

#### 【再質問】

学校の先生の関わりはどのように考えているのか。

- プール開放は社会教育であるので、学校教育とは切り離している。原則として、教員は入らないということでご理解いただきたい。ただし、学校にはいるので、何かあれば駆けつける。監視体制に加わることは今のところ考えてはいない。

#### 【再質問】

美山の3小学校はプール開放が出来なかった。

美山地区内にはB & Gがある。各地区にそのような施設があるわけではないが、プール開放の代替策として、B & Gのような施設の利用促進という考えはないか。

プールを開放しなかった分の費用を助成に使うなど。

- 小学生は小学校区外へ出ないように指導している。そのため、各学校のプールを開放している。B & Gのような施設の一律減免は、今のところ考えていない。
- いろんな選択肢があるので、ご意見をいただけたらと思うが、平等性を重視していきたいと考えている。

#### 4 熱中症対策について

福井市内の小中学校はお陰様で各教室エアコンが完備され、教室内では暑さに対する心配はありませんが、体育館や校庭での授業、郊外学習、中学生は部活動など熱中症に対する対策が今まで以上に重要になっていると思います。教員は言うまでもなく、子ども達自身、保護者が熱中症に対する正しい知識がないと、命にかかわる事態を招きます。

今までにない気象状況下における熱中症対策について、教育の現場ではどのようなことが新たに行われているか、他県と比べた学校へのエアコン設置率や屋外授業時の水分補給のルール等、教えていただけますか。

##### 【回答：教育長】

- 体育の授業や校外学習など、活動の前後には健康観察をきめ細かく行い、体調の悪い児童生徒には無理して参加させないようにしている。
- 授業には水筒を持参させ、20～30分に1回を目安として休憩と水分補給の時間を確保している。さらに、屋外に日陰となる場所が無い場合には、テントを設置し、休憩場所の確保にも努めている。
- 環境省が示している暑さ指数を参考に、活動の縮小や中止判断するよう指導している。
- 教職員に対しては、職員会議等の時間を利用して、熱中症防止に向けた予防策や対応、連絡系統の確認を行い、児童生徒にも周知している。
- 保護者に対しては、毎月配付される保健たよりを活用し、熱中症の危険性や予防策、健康管理等について周知している。
  
- 本市の学校へのエアコン設置は、早い段階から実施しており、普通教室は100%設置している。全国的にみると普通教室は、58%しかない。
- 特別教室については、本市の場合には、音楽室に限って28年度に中学校、29年度に小学校設置している。それ以外の特別教室には、設置予定は無い。
- 体育館は全国的にもほぼ設置されていない状況である。本市の場合も現状、難しいと考えている。
- 国の補助等もあるが、まずは、職員室・保健室のエアコンの更新が必要であるため、その更新を順次行っていくことを優先している。

## 5 英語教育について

英語教育、特に高校入試における英検問題について、平成 29 年度の語る会の際に、「準 2 級以上の内容は中学校学習指導要領の範囲外であり、準 2 級以上に対応した授業は特に行っていない。県では、3 級以上の過去の問題集を市内全中学校に配布し、保護者や生徒からの要望に応じて、提示したり、個別に生徒からの質問を受付けるなどの対応を行っている。県に対しては、今年度の入試結果を踏まえて検証を依頼しており、その結果を基に、今後市としての対応を検討していきたい。」と回答をいただきました。

今年は加点制度の見直しにより、5 点に加点幅が縮小されましたが、加点制度自体は続いています。

この流れはこれからずっと続くのでしょうか。

続いていくのなら、それに対応した英語教育が求められると思います。市としても対応を検討されていると思いますので、ご意見をお聞かせください。

### 【回答：教育長】

- 「読む」「書く」「聞く」「話す」の英語の 4 つの能力の内、これまで試験内容に含まれなかった、「話す」能力を評価するため、スピーキングが含まれる英検を活用するというのが、加点の発想の始まり。
- 「いつまで続くのか」という質問についてだが、なんらか別の方法で入試にスピーキングテストが組み込まれば、加点は必要ないのではないかという話を県内の教育長会議でしている。
- 全国学力学習状況調査の英語テストにて、スピーキングテストを実施する予定である。県の入試でも組み込めないのかと要望していきたいと考えている。

## 6 共働世帯全国1位についての対応について

福井県は、共働き世帯日本一です。そのような状況を踏まえると、児童クラブなどの、親が働いている時の子どもの受け入れ施設の充実が急務だと感じています。それについて、今後の対応等、どのようにお考えでしょうか。

### 【回答：市長】

- 現在、福井市では児童館で実施する放課後児童会を29カ所で運営している。しかし、希望者が多くなっていることと児童館が無い地区ある。そのことに対応するため、小学校の余裕教室や旧公民館等の市有施設、民間所有施設などで実施する児童クラブ49カ所で運営している。
- 平成27年度に子ども子育て新制度が成立し、入会対象学年が1年生から6年生までに拡大されたことで、年々、児童クラブの継続利用の希望者が増加し、部屋が足りなくなる状況が出てきている。
- そのため、空き教室や空き教室が無い地区では、他の施設も利用し、対応に努めている。
- 5年前には児童館以外で運営されている児童クラブは26カ所だったが、現在は49カ所まで増やしている。今後も取り組んでいかないとはいけないと思っている。
- また、これまで小学校内での児童クラブ開設を進めてきたが、運営にあたっての大きな課題として、児童クラブの職員の確保が挙げられる。放課後の短い勤務時間、家事で忙しい時間帯の勤務や気がかりな児童への対応の難しさ等から離職する方も多く、各児童クラブでは人員確保に大変苦勞している現状がある。お知り合いにご在宅で時間の余裕があるような方がいらっしゃったら、ご紹介いただきたい。